

袋井 RPF 工場

「プラスチックの処理ならお任せ」

袋井 RPF 工場、有線電動重機が「新解体建設リサイクル」7月号に掲載されました。

掲載記事↓

処理施設に電動ショベル導入

◎ ㈱リサイクルクリーン

解体工事業はじめ産廃や一廃の取運・処理、RPFの生産など手掛ける㈱リサイクルクリーン（静岡県浜松市天竜区二俣町二俣41、藤城太郎代表取締役、☎053-925-1366）はこのほど、コマツと2年にわたって共同開発を進めてきた「有線式電動油圧ショベル」の産業廃棄物処理仕様機を完成させた。粉じんの多い処理施設内でも安定稼働できるよう改良を重ねたもので、静岡県内に納入されるのは初の事例となる。

電動化と自家発電でゼロエミ実現へ

同社は自社施設に太陽光発電設備を追加設置しており、年間発電量は69万kWh。電動ショベルはこの再生可能エネルギーを活用して稼働する仕組み。これまでディーゼル重機で課題となっていたCO₂排出量は、従来機で年間約115tだったが、電動化により排出ゼロを実現。脱炭素の観点からも大きな前進となった。

産廃処理工場では日常的に大量の粉じんが発生し、建機のエアフィルターや制御機器の目詰まりによる不具合が頻発するのが課題だった。特に稼働時間が1万時間を超えると、故障やメンテナンスが増加し、業務に支障をきたすケースが多かったという。こうした現場の声を反映し、今回のモデルでは粉じん対策を徹底。エアフィルターの構造改良や、制御盤へのフィルター追加、空調システムの制御機能改善などを施した。

加えて、ディーゼル重機では排ガス規制対応のために尿素水の使用が求められるが、電動機はその必要がなく、管理面でも利便



共同開発した「有線式電動油圧ショベル」

性が高い。電動モーターは起動直後から高いトルクを発揮できるため、重作業でも安定した性能を発揮し、同時に静音性にも優れている。近隣住民への環境配慮にもつながる設計だ。

同社はまた、グループで農業生産法人を運営し、静岡県内で約50haの稲作を行っている。収穫後のもみ殻は廃棄せず、RPFに混合する取り組みも行っており、リサイクル資源としての利活用を図っている。農業と廃棄物処理の融合により、地域資源の有効循環と環境負荷の低減に貢献している点も注目される。

「重機の電動化は、これからの産業廃棄物処理に欠かせない技術だ。現場で安心して使える仕様をつくり上げるため、改良を重ねた。今後は導入先を広げ、業界全体の脱炭素化にも貢献していきたい」と、藤城社長は語る。

同社では、今後も再生可能エネルギーの活用や、処理施設・設備の改善を通じて、環境負荷の少ない産廃処理事業を推進する構えだ。業界内でも先駆的な取り組みとして注目を集めそうだ。

工場での実際の稼働風景を是非一度ご覧ください。

お待ちしております。